

「自助」押し付けとたたかろう

比例候補

訴える

日本共産党の高橋ちづ子衆院議員・東北比例候補が11日の盛岡市内の街頭演説で、「自助」押し付けの政治とたたかい、被災地の復興を進めてきた訴えが反響を呼んでいます。訴えは次の通りです。



訴える高橋ちづ子衆院議員11日、盛岡市

東北ブロック 高橋ちづ子さん

「自助・共助・公助」が首相のめざす日本の姿だといっています。

国会に送っていただいて17年、私は、その大部分は被災地を歩いてきました。被災地の皆さんは言われなくなっています。「自助」をやっています。もちろんあの震災のときは、国、行政の支援がなければだめでした。だけど最初は自主的に避難所をつくり、自分たちで大切な食料を持ち寄ってみんなで助け合って頑張ってきました。それは被災者の皆さんが一番よくわかっています。政府が上から「自分で自分を助けろ」なんて言うべきではありません。

阪神・淡路大震災の時から個人の被災した住宅に税金で支援なんかできないと冷たく言い放ってきた政府。「半壊」なら公費支援の対象にならないといってきた政治。これを変えようと被災者の皆さんと力を合わせ一歩一歩乗り越えてきました。岩手、宮城

の環境整備」とあり、「共助」すらなくなりました。その改悪によってやられてきたことは、物価が上がっても年金は減らし続ける仕組み、後期高齢者医療制度の負担増、介護保険の保険外し、生活保護の基準切り下げなどです。

野党議員らと共同提案を重ね、いま被災者生活再建支援法はどうとう「半壊」以上を対象にする改正が準備されています。こうして自助を押し

皆さんがめざす社会を皆さんは望みますか？一緒に声をあげましょう。

付ける政治に対し、私自身が皆さんと一緒にたたかってきた、と自信をもって訴えることができます。

私たちは次の総選挙で、野党の力で連合政権をつくることに初めて挑戦します。その条件も広げられました。皆さんはコロナ禍でたくさんのがまんをされました。コロナの後は、一人ひとりが大切にされるより良い社会をつくりたい。そのために野党共闘に全力をあげ、その真ん中で頑張る日本共産党を大きくしてください。

同時にこの言葉が法律に書かれたのは2013年の第2次安倍政権の社会保障改悪のスケジュールを盛り込んだ「プログラム法」のときで、そこには「自助・自立のため

大きくしてください。